

プラチャレ 通信 8月号

毎月一日は
「しがプラチャレンジの日」

プラスチックごみ削減に
向けたチャレンジ(プラチャレ)を
この通信でお知らせしています。
ぜひ実践してみましょう!



KOGAMI_CHOICHI

湖神挑一くんInstagram

8月のプラチャレテーマ

「マイクロプラスチック」になる前に

ごみを見つけたら 拾おう!

道に捨てられたり、風で飛ばされたプラスチックごみは、川などを通って琵琶湖に流れこみ、紫外線などの影響を受けて劣化し、碎けてマイクロプラスチック※になります。小さくなってしまうと回収はとても困難。そうなる前に、ごみを見つけたら拾うことが大切です。



危険のおそれがある膨張したペットボトルや鋭利なごみなどには触れないように注意してください。



※マイクロプラスチックとは、5mm未満の小さなプラスチックの粒や破片。分解されずに環境中に長期間留まるものが、近年問題になっています。



プロジェクトキャラクター 湖神挑一くんより

マイクロプラスチックってびわ湖にもあるのかな?
きみの家の近くではどうかな?
調べたら、ぜひ結果を教えてね!

湖岸でチャレンジ

マイクロプラスチック調査!

用意するもの

- ・ふるい(目の大きさが約5mm)
- ・ふるい(目の大きさが約2mm)
- ・たらい または大きめのバケツ
- ・チリトリ・ひしゃく・虫めがね

① ふるいの分量分の砂を採取して、予め水を張ったたらいに入れ、ひしゃくでかき混ぜる。

② 水の上に浮かんできたものを、ひしゃくですくう。

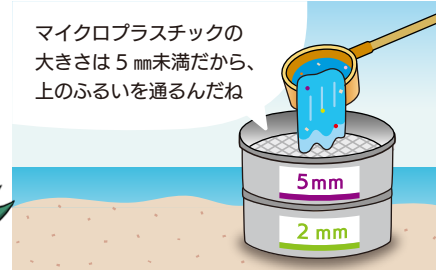
プラスチックは、水よりも軽いから浮いてくるよ



※一部、水に沈むプラスチックもあります。

③ ふるい(5mm)を上、ふるい(2mm)を下に重ねて、その上からすくったものを通す。

マイクロプラスチックの大きさは5mm未満だから、上のふるいを通るんだね



④ 目が2mmのふるいに残ったものからマイクロプラスチックを探して観察する。

※詳しい調査方法は二次元コードから



自然に還り熱にも強い新しいプラスチック

BBC ニュース連携企画

トウモロコシやサトウキビのデンプンから作られるプラスチックの原料「PLA樹脂」。自然に還る植物由来のプラスチックですが、耐熱性がなく使用範囲が限られていました。

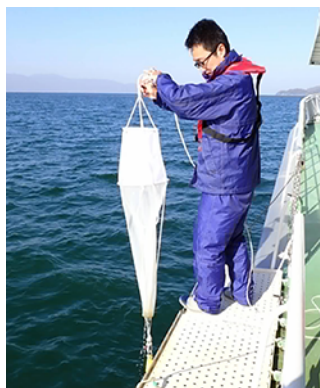
その弱点を克服する技術を開発したベンチャー企業「パイオエックス」を取材しました。

ニュース映像は
こちらから



琵琶湖のプラスチックはどこから来て、どこへ行く？

海洋プラスチックごみやマイクロプラスチックによる環境汚染が世界的な問題となっています。しかし、琵琶湖のような内陸の湖では、プラスチックがどこから流入し、どこへ行くのか十分には分かっていませんでした。そこで滋賀県琵琶湖環境科学研究センターでは、2023年度から2025年度までの3年間にわたり、琵琶湖や流入河川、市街地、農業用排水路などで調査を実施しました。対象は5mm未満のマイクロプラスチックと5mm以上のマクロプラスチックで、琵琶湖におけるプラスチックの流れを明らかにすることを目指しました。



琵琶湖における
マイクロプラスチック調査

調査で分かったこと

市街地から排出されるプラスチックは、マイクロプラスチックよりもマクロプラスチックが数十倍多く、その多くはペットボトルでした。一方、マイクロプラスチックはプラスチック片やシート片、発泡スチロール片などが中心で、マクロプラスチックとは種類が大きく異なっていました。このことから、大きなプラスチックが砕けてマイクロプラスチックになるだけではないことが分かりました。また、農業用排水路では被覆肥料の殻が多く見つかりました。

琵琶湖ではポリエチレンやポリプロピレン、繊維状のポリエチレンテレフタレートが多く見つかり、平均すると南湖の方が北湖より数倍多い傾向がありました。さらに、大気からの沈着や下水処理場などからの排出も含めて推定すると、市街地から流出するマクロプラスチックが琵琶湖への主要な流入源と考えられました。



市街地の排水から集まったごみ

一方、琵琶湖に流入したプラスチックの多くは湖岸に漂着したり湖底に沈んだりし、瀬田川から下流へ流出する量は比較的少ないことも分かりました。

私たちにできること

プラスチック問題というとポイ捨てを思い浮かべがちですが、私たちは日常生活の中で知らず知らずのうちにマイクロプラスチックを排出しています。プラスチックをすぐになくすことはできませんが、使い捨てを減らすなど、できることから行動を変えていくことが大切です。琵琶湖の環境を未来へ引き継ぐため、一人ひとりがプラスチックとの付き合い方を見直していく必要があります。



琵琶湖岸のマイクロプラスチック

執筆者 佐藤 祐一

(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
総合解析部門 専門研究員)

専門は環境システム工学。水文・水質・生態系のモデリング、ビオマスなど外来生物の保全活動、プラスチックごみの調査などを進めるほか、マザー・レイクゴールズ (MLGs) の案内人代表も務めています。

県からのお知らせ

8月27日は世界湖沼の日

「世界湖沼の日」である8月27日は、1984年に滋賀県大津市で開催された第1回世界湖沼会議の開会日にちなむものであり、滋賀県に大変ゆかりがある日になります。



水を大切に、湖沼環境やそれが育む豊かな生態系を守ることが、私たちの生活を豊かにすることにつながります。「世界湖沼の日」は、湖沼と人々のつながりを再認識し、その大切さを世界中で考える日です。みんなで一緒に、湖沼とともに生きる未来について考えましょう。